

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「松屋銀座、節電・防災福袋、東北応援福袋」
- 2) 「広島三越、デパート屋上に“カキ小屋”」
- 3) 「カルビープラス常設店舗」
- 4) 「風邪薬は早めに飲むと本当に効く？」

---

**1) 「松屋銀座、節電・防災福袋、東北応援福袋」**

松屋銀座は12月1日、2012年の福袋を発表した。2012年福袋のテーマは「感謝」。身の周りにある当たり前の幸せや家族の絆、日本の文化職人など様々な「感謝」に気づき、年の切り替わりとともに新しく一歩前へ進むきっかけとなる福袋を提案するという。節電・防災福袋、メイド・イン・ジャパン福袋、東北応援福袋、体験型福袋、家族の絆福袋、旬のネタ福袋や東京スカイツリー、ママ会、銀座などをテーマにした福袋を企画した。丸々盛り盛り！あったか節電福袋（限定30個）は、20万円相当の商品を3万円で販売するもの。コート3点（ウール、ダウン、モッズ）、ワンピース、スカート、カシミアニット2点、アルパカニット、機能性カットソー2点、カシミアマフラー、ファーマフラー、手袋の計13点が入っている。

2011年は、1月2日の午前3時からお客が並び始め、開店前に約6000人が並んだ。初売りで最も早く売り切れた福袋は「リタズダイアリー福袋」1万円・限定70個で、開店2分3秒で完売した。初売りの売上は前年比3%増だった。なお、2012年の最高額福袋は「プライベートマリリンペンダント福袋」150万円となっている。

冬の節電が本格的に始まりだして、これからさらに寒くなる事に不安を感じている人に対して効果的な販促だ。

復興支援福袋と共に、色々な場面でこれらのキーワードを目にするようになってきているのは絶えることのない支援が根付いてきた証拠だろう。

---

**2) 「広島三越、デパート屋上に“カキ小屋”」**

広島県産カキを味わってもらおうと、広島市中区の広島三越屋上に「カキ小屋」が1日、期間限定でオープンした。かつて国内初の百貨店屋上プールとしてにぎわいを生み、夏はビアガーデンとして利用されているが、冬場は閉鎖されていた。市中心部の百貨店の屋上「デパ屋」の新たな活用策として注目を集めそうだ。広さ約400平方メートルに300席を用意。ランチはカキフライ定食などを販売。夜は食べ放題のバイキング形式（10歳以上2500円など）にして、カキ飯やカキの茶わん蒸し、「カキ本来のうま味が堪能できる」と蒸しガキ（6個）などを提供する。

広島三越では、1973年の開店と同時に屋上プールを開設。しかし、市内に大型プール施設の建設が相次ぎ、88年に閉鎖。夏場のビアガーデン以外、ほとんど利用されていなかった。そごう広島店の屋上は、74年の開店時から遊園地があったが、利用客の低迷で昨年1月に閉鎖。福屋八丁堀本店、天満屋広島八丁堀店の屋上も遊園地がなくなるなど、有効利用されていないのが現状だ。

利用者からは「屋上で、カキとお酒が楽しめ、新たな冬の風物詩になりそう」や「仕事帰りに気軽に新鮮なカキが食べられるなんて、ぜいたくの極み」といった声も聞かれている。来年4月8日までで、期間中は約3万5000人を見込む。営業は昼が午前11時-午後3時、夜が午後5-10時。

夏のビアガーデンはデパート屋上催事の定番だが、通常閉鎖される冬でも、その時期にしかできないイベントはたくさんありそうだ。節電中とはいえ、イルミネーションがキレイになる季節、寒い中で夜景を見ながら温かい物を食べればいっそう心が満たされそうだと思う。是非身近でも開催してほしい。

---

### 3) 「カルビープラス常設店舗」

カルビーは、2010年10月に東京駅地下で期間限定のアンテナショップを開店して以来、京都や千歳、博多などでテスト的にショップ展開に取り組んできた。そんな同社にとって首都圏初の常設店舗となる「カルビープラス」が、12月7日に原宿の竹下通りにオープンする。

同ショップの物販コーナーでは、カルビーの人気商品をはじめ、都内ではなかなか手に入らない全国の地域限定商品や、ぬいぐるみ、鉛筆、携帯ストラップなどのキャラクターグッズ、さらに「お土産じゃがりこ」全種類を一箱に詰め合わせられるカスタマイズ商品が販売される。全国販売に先駆けて、新製品の先行販売や、テスト製品の限定販売などが実施する予定。

店内1階に設けられたイートインコーナーでは、揚げたてのポテトチップスをその場で味わうこともできる。チーズやチョコレートなどのフレーバーをかけたり、ソフトクリームをトッピングするなど、ここでしかチョイスできない食べ方も色々と試せるようになっている。

カルビープラスは、AKB48やエヴァンゲリオンのオフィシャルショップと並んでおり、原宿の新たな名所になりそうだ。揚げたてのポテチが食べられるイートインには長蛇の列ができるかもしれない。

---

### 4) 「風邪薬は早めに飲むと本当に効く？」

今年もやってきた、やっかいな風邪の季節。医者に行く時間がなかなか作れない社会人にとって、この季節に欠かせない存在となるのが、市販の風邪薬だろう。

ところで、風邪薬の広告を見ると「効いたよね？ 早めの〇〇〇〇！」や「くしゃみ3回△△3錠」など、早めの服用を推奨するメッセージが多い。しかし風邪薬は基本、風邪の症状を抑えることを目的とする“対症薬”のはず。どのタイミングで飲んでも、効能に大差はな

いように思える。いったい“早めの風邪薬”には、どのような意味があるのだろうか？ 来年で55周年を迎える総合感冒薬の長寿ブランド「パブロン」シリーズを販売する大正製薬に訊いた。

「風邪を治すいちばんの方法は、自身の免疫力により風邪の原因となるウィルスを倒すこと。免疫力を保つためには、体力が必要となります。そこで、対症薬である風邪薬が、体力を消耗させる発熱や咳といった症状を抑え、結果的に免疫力を高める助けをする、というわけなんです」

つまり、軽微な症状のうちに風邪薬を服用すれば、平時に近い体力を維持でき、より早く風邪のウィルスを倒せるわけだ。ちなみに、どれくらい“早め”に飲めばよいのか、という基準に関しては…。

「風邪の“サイン”は人により異なると思いますが、よく言われるのが喉の違和感。少しイガイガするかな？ と感じる程度で服用して構いません。逆に、明らかに熱があったり、鼻が詰まっているような場合は、かなり症状が重たくなっているので、病院で診察を受けた方がよいでしょう」

とのこと。もちろん風邪薬を飲むだけでなく、栄養をとる、身体を温める&休めるといった、体力をつけ免疫力を高める措置も早いほど効果的。風邪のシーズンを無理せず乗り切るには、とにかく「先手必勝」なのだ。

仕事人ともなれば、うかつに風邪をひくわけにはいかない。こじらせないためにも早め早めに対処はするが、やはり基本は健康な体をつくることだ。寒くなるこの季節、「冷え」が一番の敵であるため、冷やさない生活を心がけたい。